

令和4年度 自己評価表

愛媛県立三島高等学校
学校番号 (2)

教育方針	創造性豊かな思考力・判断力と実践力を身に付け、自他の人権を尊重し、国際的視野に立つ社会的な連帯意識を培うとともに、個性を伸ばし、誠実で剛健な気風を養う。	重点目標	「自ら学び、鍛え、考える力の育成」 1 自主的な学習態度の確立 2 基本的な生活習慣の育成 3 人権尊重意識の高揚 4 部活動・ボランティア活動への積極的な参加
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	教科指導の充実	実験・実習等体験的な授業も取り入れ、分かるまでの個別指導を実施する。	B	生徒アンケートの「説明が分かりやすかったか」「内容をよく理解できたか」の項目に対しては、「はい」と答えた生徒の割合は約90%と高かった。	授業外の指導に関しては、生徒の状況に合わせながら、連携を取って進めるべきである。生徒の休憩時間や、学習以外の活動の時間を一方的に奪うようなやり方は好ましくない、という意識を持つべきである。
		特に1年生に学習方法や授業への取り組み方の細かな指導を行い、学習態度の基本を徹底する。	B	生徒アンケートの「授業を通して、基礎・基本を確実に身に付けることができましたか」の項目に対しては、「はい」と答えた生徒の割合は約90%と高かった。	生徒アンケートの「予習・復習をしていますか」の項目に対しては、「よくできている」と答えた生徒の割合が約35%と低く、前向きに取り組むことができるように生徒の意識改革が必要である。
	保護者との連携	生徒の学習状況が十分に理解できるような資料等の工夫・改善に努める。	B	三者面談などを通じて、適切な情報や資料の提示を行っている割合は約85%で、昨年度とほぼ同じ水準だった。	新しい教育課程の生徒からは、観点別学習状況も通知表に記載されるため、生徒の学習状況についてこれまでよりも詳しく説明し協力をお願いしたい。
	家庭学習の充実	計画的に家庭学習に取り組めるよう合理的な量と質の課題を講じる。	B	課題の量や内容は、90%以上の生徒が適切だと回答した。	宿題や予習・復習が十分できていない生徒も一定数いる。今後も、学年が上がるごとに増える課題に計画的に取り組ませるよう、指導が必要である。
家庭学習時間を、普通科180分以上・商業科90分以上となるよう指導する。 普通科 A:180分以上 B:170~180分 C:160~170分 D:150~160分 E:150分未満 商業科 A:90分以上 B:80~90分 C:70~80分 D:60~70分 E:60分未満		E	6月調査では、普通科134分、商業科59分だった。調査期間(2学期末)中でも、1年生210分、2年生208分、3年生221分という少なさである。クラスごとの開きはあがるが、IIA・IV類型の生徒の学習時間も例年より少ない。	教員側は適度な量・質の課題を生徒に与えているが、生徒側があまり時間をかけずに取り組んでいるような印象を受ける。学習している内容の中で何がポイントなのか、丁寧に突き詰めた学習ができていないようである。	
生徒指導	個別指導の充実	三者面談・個人面談を年間6回以上実施するとともに、日常的な生徒との対話や積極的な声掛けを重視する。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	定期的な面談に加え、必要に応じて面談ができている。担任以外にも学年主任や課長が面談に加わることもある。	担任が面接をする時間確保については配慮が必要である。
	生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立によって、出席率を98.5%以上にする。また、5分前登校時の指導者を年間のべ200名以下とする。 A:98.5%以上 B:98.4% C:98.3% D:98.2% E:98.1%以下 A:200名以下 B:201~250名 C:251~300名 D:301~400名 E:401名以上	出席率 E 5分前 E	コロナ禍で出席停止の生徒が多い中、出席率は97.6%(1学期)96.4%(2学期)であった。休むことへのハードルが低くなっているのが気がかりである。 12月以降5分前登校指導者が多くなったが、余裕を持った登校を意識させ、継続した指導をしていきたい。	コロナウイルスの影響も大きく、体調管理の難しさが現れた結果だと言える。生活リズムを健全に保つための指導や取組が必要な生徒もおり、長期欠席の生徒も複数いる状況である。 クラス担任、教科担任、部活動など、学校生活のあらゆる場面で継続した呼びかけをすることによって意識の高揚を図っていきたい。
		平素から端正な身だしなみを意識させ、身だしなみ指導合格率95%を目指す。 A:95%以上 B:94% C:93% D:92% E:92%未満	B	1月末までの身だしなみ合格率は94.0%であり、昨年度とほぼ同じ合格率だった。コロナ禍でマスクの着用や換気を行いながら体調管理についても意識させたい。	身だしなみ指導のときだけでなく日頃から継続した指導をしていきたい。また、校則の見直し等についても生徒からの意見を参考に、生徒会を中心にして行っていきたい。
	保護者との連携	普段から家庭との連携を密にして、保護者との共通理解に努める。	A	常に家庭との連携を図り、何かあれば電話連絡などができている。	今後も共通理解に努めていきたい。
交通安全指導の充実	登校時の交通安全指導を充実させ、校外での交通安全についての意識の高揚を図る。	B	年間を通じて北門前の交差点で登校指導を行った。1学期に登校中の自転車と車の接触事故が数件あり心配したが、2学期以降は比較的少なかった。	北門前交差点での登校指導を今後も継続していきたい。事故を未然に防ぐためにも交通ルールの遵守やマナーの向上、ヘルメットの着用など、今後もいろいろな場面を通して、交通安全意識の高揚を図っていきたい。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職決定率を100%にする。 就職決定率 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:70%未満	A	就職内定率100%が達成できた。	就職試験や就職後に必要な基礎学力、職業観を身に付けさせるとともに、仕事のミスマッチを防ぐ。
		商業科では各種検定において、1年生3級・2年生2級をそれぞれ2種目以上取得させる。3年生は、1級を1種目以上取得させる。3学年全体での取得率平均で A:85%以上 B:70～84% C:60～69% D:50～59% E:50%未満	B	1年生93.9% 2年生75.0% 3年生82.9% 全体で83.9%の達成率である。 コロナ禍で指導時間が限られたことも取得率減少の要因となった。	・制限される指導時間の工夫 ・継続的な学習への取組強化 ・適切な課題配布、家庭学習時間の確保 ・検定直前対策（全体指導、個別指導）の強化
	進学指導の充実	進学希望者の進学決定率を100%にする。 進学決定率 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:70%未満	B	3月初旬現在、進学希望者の進学先決定率は、97%である。第一志望の大学合格へ向けて励んでいる。	生徒が自分の将来像を描けるように、低学年から進路指導の充実を図る。授業や課外活動、そしてボランティア活動、オープンキャンパスなどを通して幅広い選択肢から進路選択ができるように支援していきたい。
		国公立大学の合格者数60名以上を目指す。 国公立合格者数 A:60名以上 B:45～59名 C:30～44名 D:15～29名 E:14名以下	B	現在、総合型選抜および学校推薦型選抜、共通テストによる合格者は50名で、昨年度よりは増加しているものの、数年前と比較するとかなり少ない。数値目標を達成するのは、厳しい状況である。	家庭での学習習慣を定着させることによって、基礎学力の向上を図るとともに、授業、ホームルーム活動、そして総合的な探究の内容を見直し、生徒が社会で起こっている問題に興味関心を持ち、問題解決に主体的に取り組めるような力を養う必要がある。
特別活動	学校行事の充実	クラスや学年の枠を超えた学校行事を通して、人間関係の構築を積極的に図る。	B	コロナウイルス感染症対策の制限下ではあったが、各種行事での交流を通して、生徒たちは様々なことを学ぶことができた。	実施時期を含めて改善できる点については見直し、生徒たちが貴重な体験をできるようにさらなる工夫をして、学校の魅力化につなげていきたい。
	部活動の充実	文武両道を旨とし、部活動加入率を80%以上にする。 A:80%以上 B:78～79% C:76～77% D:74～75% E:74%未満	A	多くの生徒が部活動に所属し、文武両道を果たすべく日々努力することができた。部活動に加入している生徒が様々な場面で中心となって活動してくれている。	勉学と部活動を両立できるような環境を今まで以上に作っていかねばならないと考えている。また、部活動を魅力あるものとすることで生徒数の確保にもつなげたい。
		県高校総合文化祭への出場4部以上、県高校総体への出場170名以上を目指す。 A:4部 B:3部 C:2部 D:1部 E:0部 A:170名以上 B:160～169名 C:150～159名 D:140～149名 E:140名未満	高文祭 A 県総体 A	生徒数の減少等に伴い部員の確保に苦労している部活動もある中、熱心な活動の成果もあり、高文祭・県総体ともに多数の出場を果たした。県総体には207名の選手が出場した。	来年度も引き続き生徒たちが日々の取り組みの成果を発揮して目標を達成し、成長につなげられるようにしっかりと指導していかねばならない。
		全国大会出場延べ10部以上を実現する。 A:10部以上 B:9部 C:8部 D:7部 E:6部以下	B	国体の中止などもあったが、多くの部活動が全国大会出場を果たした。	目標を達成できるように、日々の取り組みを大切にしていきたい。
ボランティア活動の充実	ボランティア活動に力を入れ、地域社会との交流を積極的に行う。ボランティア参加延べ人数100名以上を目指す。 A:100名以上 B:80～99名 C:60～79名 D:40～59名 E:39名未満	A	生徒たちはボランティア等の地域との交流に積極的に参加し、貴重な経験をすることができた。	来年度も影響が残ると考えられるので十分な対策を行い、可能な限り生徒たちが貴重な体験をできるようにしていきたい。	
業務改善	職場環境の整備と適切な勤務時間	職場環境の整備を図り、時間外勤務上限月45時間・年間360時間以内を目指し、時間外勤務時間が月80時間を超える教師の割合を「0」にする。 A:0% B:1～5% C:6～10% D:11～20% E:21%以上	D	本校では、約16%の教員が月の時間外勤務時間が80時間を超えていた。100時間を超える者も数名いるので、健康状態等が心配される。	勤務日の残業や週休日（土日祝日）の時間外超過が不可避である現状を鑑みながらも、校務の整頓やICT活用による業務の効率化、働きやすい環境の整備、データの属人化の防止や教員同士の情報共有をよりスムーズに進めることで、目標達成に向けて努力していきたい。

※評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。